

【問題】

次頁以下に掲げる文章は、盛山和夫『社会学の方法的立場 客観性とはなにか』（東京大学出版会、二〇一三年、三九―五八頁）に収められた文章である。

この文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

問一

傍線部(1)「デュルケムが考えたような『社会的事実』なるものは、端的にいつて存在しない」とあるが、それはなぜか。デュルケムの考える「社会的事実」の内容を踏まえつつ、筆者の見解に即して説明しなさい。

なお、解答は二〇行以上三〇行以内にまとめること。

問二

傍線部(2)「社会学は明らかに超越的なものを前提とすることにはつきりとした拒否感を抱いている」とあるが、それはなぜか。筆者の見解に即して説明しなさい。

なお、解答は二〇行以上三〇行以内にまとめること。

(注)デュルケム：エミール・デュルケム。フランスの社会学者。社会学に他の学問にはない独自の対象を扱う独立した科学としての地位を与えるために尽力した人物であり、その学問的立場は方法論的集団主義と呼ばれる。